



永井秀雄医師

将来、医師や看護師になってほしいという気持ちはありますが、そういう特殊な医療に関わらなくても、一般の市民として生活していく上で、自分の健康には十分に関心を持っていただきたいです。またそのきっかけになればうれしいですね。



松森昭代管理栄養士(白十字総合病院)

元気いっぱいに参加してもらえてとてもうれしかったです。今日の授業をきっかけにして栄養のことを考えながら、お家の方が作ってくれるご飯を食べてもらえるといいな。



吉田千賀子看護部長(神栖済生会病院)

児童の皆さんが、関心を持って積極的に参加してくれて非常にうれしかったです。男性看護師が参加していたことで、「男性でも看護師になれるの?」という質問がありました。より多くの児童が看護師に興味を持ってくれてよかったです。

参加者の感想

神栖第一中学校



中田信二校長

今回の医療教育を通し、多くの生徒が身近な医療に関心高め、機会があれば、さらに医療について調べてみたいと考えているようです。また、進路選択において医療関係の仕事に就くことを希望する生徒もいるなど、この体験で培った医療への思いを、ぜひ、今後も大切に、神栖市の医療発展につなげていければと思います。

生徒



味覚の実験では、目隠しをしてグミを食べましたが、五感のどれかを使わずに食べると、味の感じ方が変わるということに驚きました。

命の尊さや大切さが分かりました。これからは自分だけではなく家族や友達のことを大切に、生活していきたいです。

この授業をきっかけに自分の命を大切に、産んでくれた母や、今、私を育ててくれている家族に感謝の気持ちを持って生活していきたいと思いました。

柳川小学校



糸川義明校長

子どもたちが「患者」という立場でしか関わることのない医療関係者の方々と、医療教育を通じ、身近な存在であることを感じながら学習活動を進めることができました。児童の中には、医療の仕事に興味を持った子もいることから、自分の将来を見つめる非常に貴重な機会となりました。

児童



人が倒れたときに何をすればよいかなどを、いろいろな体験を通して学ぶことができました。もし人が倒れていたら、学んだことを生かしていきたいと思います。

エピペンというものをこの体験を通して初めて知りました。何かあったときに助けたいと思います。

命がどれだけ大切なのかが分かりました。体の仕組み、病気の種類や起こり方についてもっと詳しく知りたいです。

みんなが創る！ みんなで守る！
かみすの医療



vol.4

医療教育の実施について



市では、市内医療機関の医師や看護師など医療従事者の協力のもと、文部科学省の学習指導要領『「生きる力」を育む小・中学校の保健教育の手引き』を踏まえ、命の尊さを知り、弱者を思いやる心を育むとともに、医療への関心を高め、将来、地域医療を担う人材の育成を目的とする「医療教育」を2月1日に神栖第一中学校で、2月15日に柳川小学校で実施しました。

神栖第一中学校では

1年生を対象として実施し、全体講義では、県立中央病院名誉院長の永井秀雄先生が生徒からの事前質問に答える形での講演をされ、「医師として一番大切にしていることは」「どのくらい勉強したら医師になれるか」などの生徒からの質問に、画像や資料を用いながら「相手の気持ちになって考えること」「常に勉強。遊びも勉強のうち。英語ができるのもっとよい」などと丁寧に答え、結びには「命の大切さを感じながら自分の道を歩んでほしい」と生徒たちへのエールをいただきました。



神栖第一中学校 看護師による「からだクイズ」

また、白十字総合病院の看護師、助産師、管理栄養士の皆さんを講師に迎えたグループ講義では、命の大切さについて、講師の方々がご自身の体験やクイズ、映像などを交えながら、医療や健康への知識と理解を深める授業を行いました。

柳川小学校では

5・6年生を対象に、「人を救う」をテーマに、永井先生の全体講義では「病気を知ろう、命を助けよう」として、人体模型を用いながら、臓器の動きや病気の成り立ちについて専門的な知見を盛り込んだ講話をいただいたほか、神栖産業医トレーニングセンター統括指導医の田中完先生からは「人が倒れるとは?」として、倒れている人を見つけたときどうすればよいのか、また人はどういったときに倒れるのか、さらに命を救うための応急手当の仕方について、それぞれ詳しく説明していただきました。

また、神栖済生会病院の看護師の皆さんを講師に迎えたグループ講義では、止血方法、AEDの使い方、バイタルサインの確認方法、アレルギーに有効な自己注射薬「エピペン」の使い方など、とっさのときの応急処置や救急対応の仕方を教えていただきました。



柳川小学校 看護師による「止血方法」